

北海道大学経営協議会 委員からの意見への対応状況（令和6年）

1. 大学債（R6.1.19 経営協議会）

「脱炭素」「循環型社会」「公正な移行」といった新しいビジョンも付け加えることで、食料安全保障に留まらない広がりを持つことができ、他大学との差別化も図れる。また、「宇宙で繋ぐ異分野連携」については、今北大が掲げる理由をわかりやすく表現できればよりよい。

【本学の状況】

「「HU VISION 2030」の実現に向けた先行投資に関する審議まとめ」において、先行投資事業のコンセプトとして「広大なフィールドを活用した脱炭素社会の実現といった革新性やフロンティア性のある社会貢献を果たす」という文言を追加しました。

また、宇宙ミッションセンターは、経済産業省が実施している地域オープンイノベーション拠点選抜制度に道内初かつ宇宙分野初の拠点として認定され、分野融合によるイノベーションの創出を推進しており、令和6年10月に投資家の方々に向けて公表した [IR資料](#)* においても 最先端研究事例として紹介することにより 今後の北大の強みとなる研究分野であることを、学外の方々にも一目で理解いただけるよう情報発信しています。

*リンク先：[北海道大学 IR資料](#)

2. 産学連携（R6.3.22、R6.6.17 経営協議会）

海外のマーケットに視点を当てた経営が重要である。共同研究で海外と協力することはよいと思うが、北海道は海外志向が弱いと感じる。また、国際展開の強力なベンチャーが比較的少ない。北大だけに限定する必要はなく、他国のベンチャーと共同で行う視点があるとよい。

【本学の状況】

令和6年4月に産学・地域協働推進機構の中に 産学連携グローバル推進室を設置し、グローバルな産学連携活動を推進しています。産学連携グローバル推進室は、産学連携北米拠点、アジア拠点のほか、欧州での拠点設置に向けて、各拠点のハブとして機能するよう専任スタッフを置き、海外からニーズがある研究シーズの発掘、情報収集・発信、北大発スタートアップ企業の海外展開支援のほか、グローバル産学連携を担う人材育成等を行っていきます。

3. スタートアップ事業（R6.6.17 経営協議会）

北大はグローバル化や世界を代表する研究という観点もあるが、地域の中核とする観点もある。スタートアップでも地域中核としての立場が重要である。エイチフォースで全道の大学とネットワークを組みスタートアップを盛り上げているが、北大にとどまらない枠で強化してほしい。

【本学の状況】

エイチフォースプラットフォーム内の大学及び高等専門学校（以下「参画機関」という。）に対して、スタートアップ創出のための検証活動を支援する [GAP ファンドを公募](#)* しています。

また、参画機関それぞれが持つ課題の共有等を目的として、参画機関を巡るスタートアップ支援人材のスキルアップセミナーを開催（令和6年度は8回開催予定）しています。今後も エイチフォースの主幹機関として、全道におけるスタートアップ支援人材間の課題共有と関係強化を推進してまいります。

*リンク：[R6GAP ファンド（STEP2）研究開発課題の募集について](#)

4. 北海道大学サステナビリティ宣言の策定 (R6.9.11 経営協議会)

現状では大学内でこの宣言が知られていない可能性が高く、学生も認識していないと思われる。中身のある宣言を社会に広め、北大が先頭に立って教育や人材輩出を通じて課題解決に取り組むことで、変革が可能になると考える。

【本学の状況】

令和6年8月に北海道大学サステナビリティ宣言を策定して間もなく、学内では総合博物館におけるSDGsに関する展示、学内専用のウェブ掲示板及び事務局・インフォメーションセンターに設置しているデジタルサイネージにて掲示を行い、学外では子どもたちを中心とした市民を対象に開催した環境広場さっぽろ2024(令和6年8月)において、本宣言を策定した趣旨等を含めて周知・紹介しました。また、引き続き宣言を広めるべく、学内教職員向けにFD・SD「北海道大学サステナビリティ宣言と教育研究活動」を予定している他、学外向けには東京ビックサイトで開催したエコプロ2024(令和6年12月)やチカホで開催したサイエンスフェスタ2024(令和6年12月)の学外の各種イベント等においても周知・紹介をしています。

5. 創基150周年記念事業(寄附事業)(R6.9.11 経営協議会)

寄附したい人と寄附を求める人を見える化しマッチングする仕組みが重要になる。双方のニーズをホームページやイベントで見える化し、テーマ設定を行い、寄附したい人へ情報が届く仕組みを作成するなど、寄附以外にも含めて大学を応援できる情報を大学側から発信していくことが重要になる。

【本学の状況】

令和4年11月から北海道大学クラウドファンディング*の運用を開始し(READYFOR株式会社と包括契約)、研究費を必要とする教員が積極的に自身の研究を発信することで、これまでにない層からの支援が得られるようになりました。現在までに目標金額を達成した年度毎のプロジェクト件数及び支援額は、令和4年度1件520万円、令和5年度12件約1億3,000万円、令和6年度は現時点で2件約1,500万円であり、累計達成額は約1億5,000万円となっています。

また、クラウドファンディングをきっかけとして、特定の研究への継続的な寄附に繋がった例が出てきています。今後は、これらの運用実績等を踏まえながら、寄附したい人と寄附を求める人を見える化しマッチングする仕組みを検討します。

*リンク：[北海道大学クラウドファンディング](#)